



# 環境経済論A

## 第8講

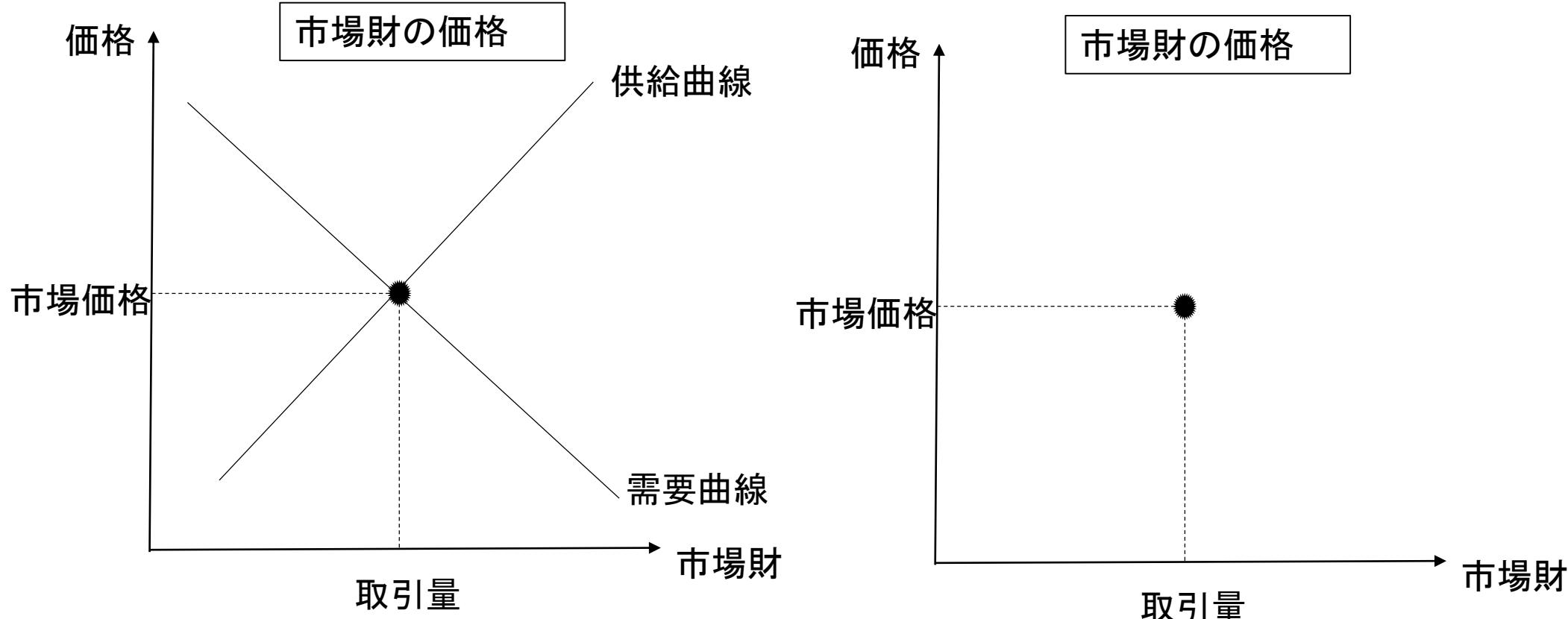
### 環境の経済評価手法①

# 環境の経済評価手法

- ・環境を価格付けする意義
  - ・外部性を持つ「環境」は価格を持たない
  - ・価格を持たない=価値がない?
  - ・「環境」: 価値があるのに価格がない
  - ・市場財は価格を持つが、非市場財は価格を持たない。
  - ・無理でも何とか価格を付けたい。
- ・「環境経済学」大ブレーク(1990年代)のきっかけとなった。

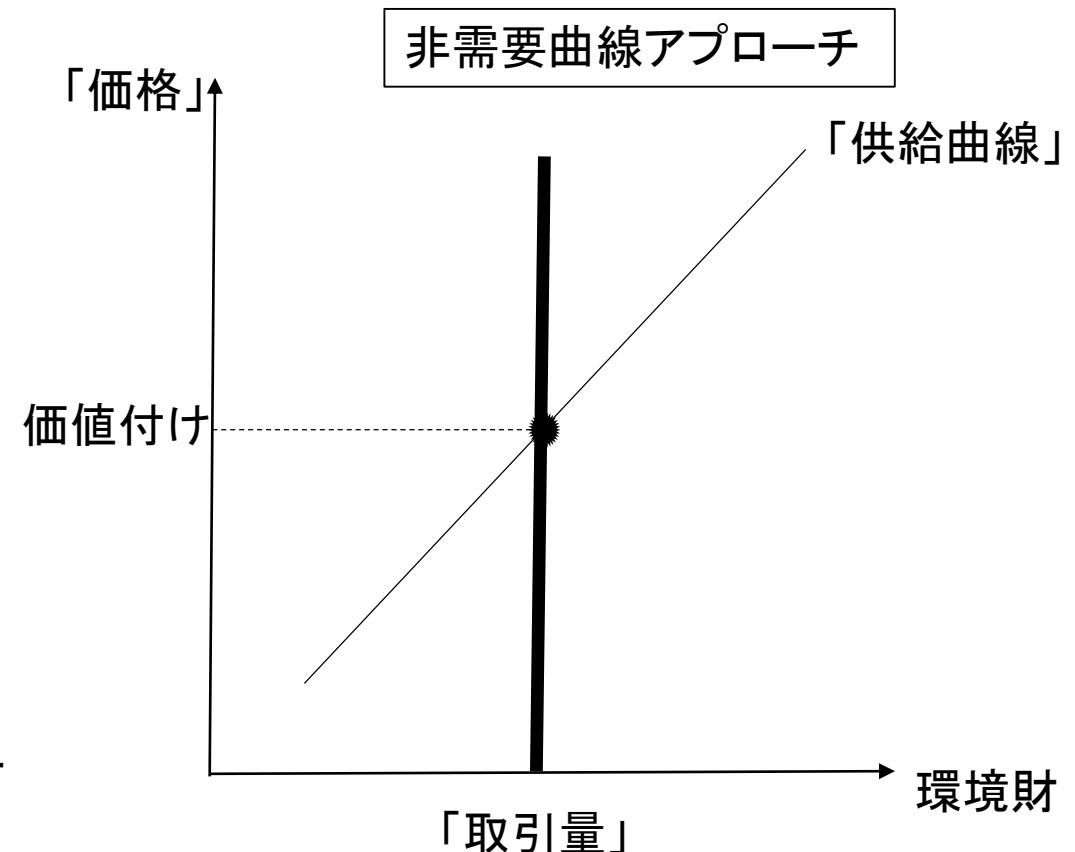
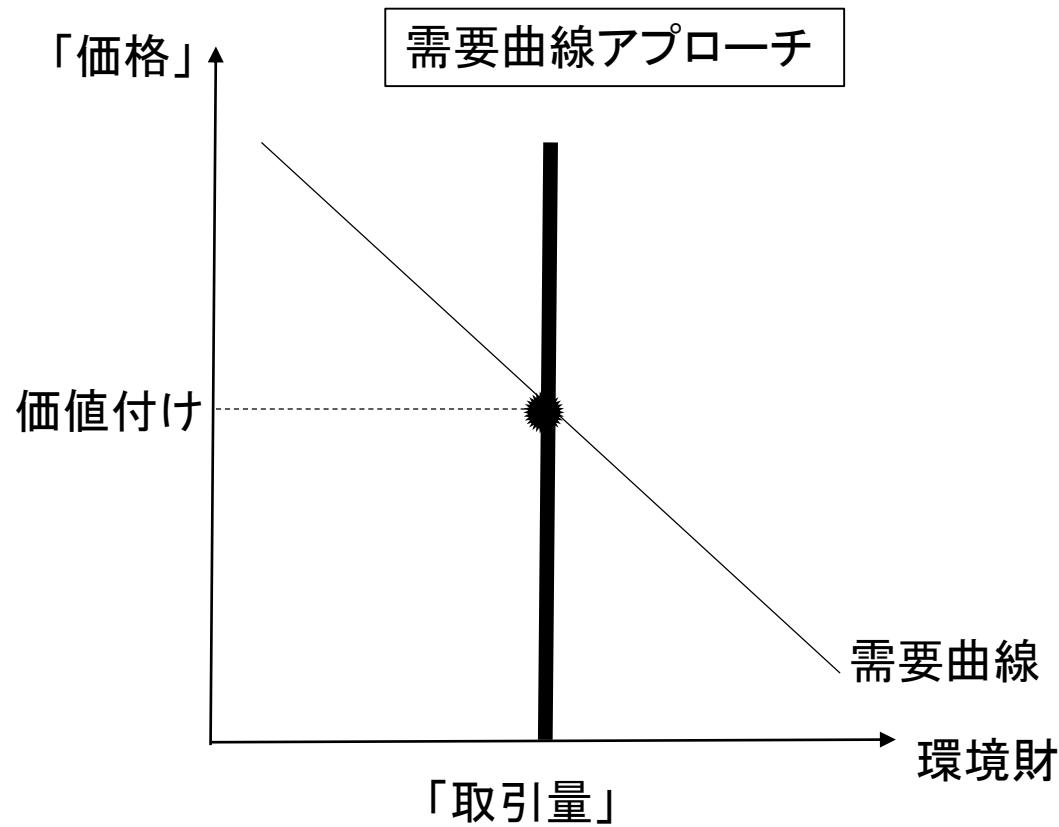
# 環境の経済評価手法

- ・非市場財の価格付け(pricing)
- ・市場財の価格→需要曲線と供給曲線の交点で定まる。



# 環境の経済評価手法

- ・非市場財の価格付け(pricing)



# 需要曲線アプローチと非需要曲線アプローチ

- 需要曲線アプローチ  
表明選好法, 顯示選好法
- 非需要曲線アプローチ(選好独立法)

# 需要曲線アプローチ

- 表明選好法

仮想評価法 Contingent Valuation Methods, CVM

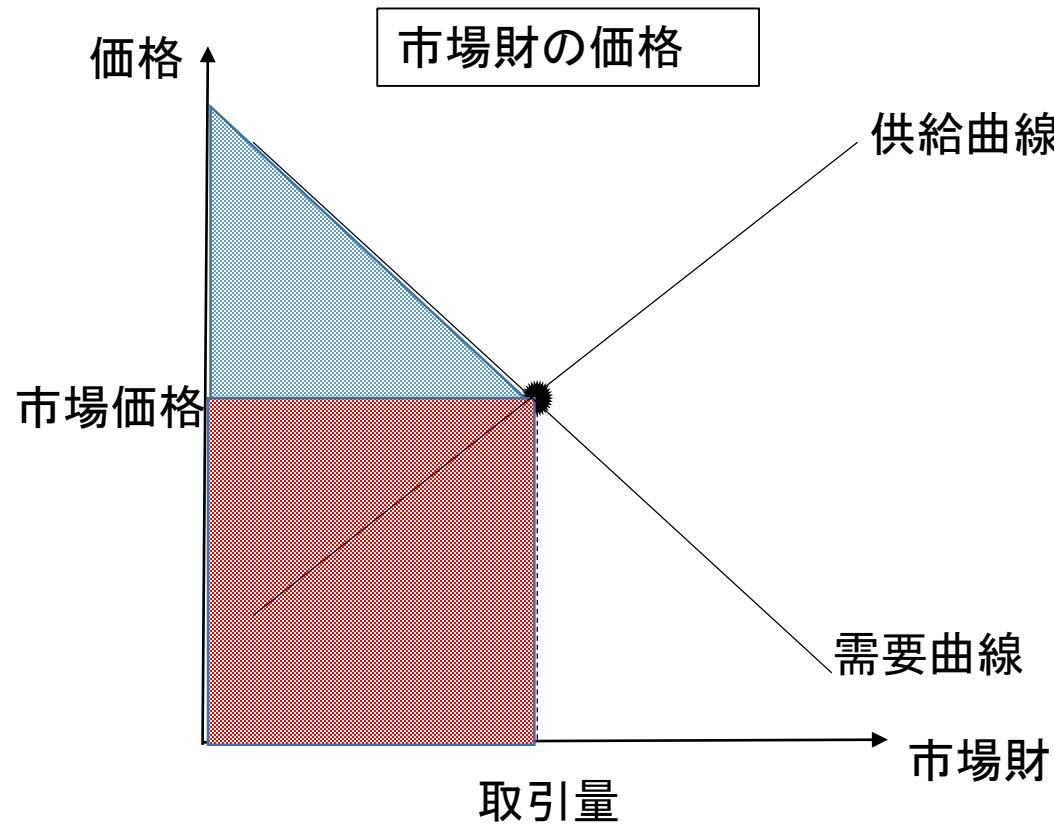
- 顯示選好法

旅行費用法 Travel Cost Methods, TCM

ヘドニック価格法 Hedonic Price Methods, HPM

# 非需要曲線アプローチ(選好独立法)

- ・置換費用法, 再生費用法 Replacement Cost Methods, RCM
- ・非市場財の価格付けとして, 理論的に「正しい」アプローチ



# 非需要曲線アプローチ(選好独立法)

- ・需要曲線アプローチは、環境財から得られる効用の評価額(消費者余剰を含む)
- ・非需要曲線アプローチは、環境財を得るためのコスト(支出額)

